

A CINDY SHERMAN FILM



Heart



Stomach



Liver



Brain



CAROL KANE MOLLY RINGWALD JEANNETRIPPLEHORN

OFFICE KILLER

DIRECTED BY CINDY SHERMAN / PRODUCED BY CHRISTINE VACHON AND PAMELA KOFFLER / EXECUTIVE PRODUCERS TOM CAROUSEO JOHN HART TED HOPE JAMES SCHAMUS / WRITTEN BY ELISE MAC ADAM AND TOM KALIN / ADDITIONAL DIALOGUE TODD HAYNES / DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY RUSSELL LEE FINE / EDITOR MERRIL STERN / MUSIC BY EVAN LURIE / A MIRAMAX INTERNATIONAL RELEASE / GOOD MACHINE AND KARDANA / SWINSKY FILMS / PRESENT A GOOD FEAR FILM / PRESENTED BY PONY CANYON AND ASMK ACE ENTERTAINMENT / DISTRIBUTED BY ACE PICTURES ©1997MIRAMAX INTERNATIONAL





オフィスキラ

電気が消えたオフィス。何が起きてるのか誰も知らない。
電灯がチカチカする、地下室のもうひとつのオフィスへ。
電気が消えたオフィス。彼女の小さな世界が壊れていく。

ニューヨークの人気女性アーティスト シンディ・シャーマン ついに衝撃の監督デビュー！



●アート meets ホラー

自分の肉体を使って、様々な人間に“変装”する。そして“変身”した自分の姿を自ら撮影する。一人遊びにも似たセルフ・ポートレイトで一躍脚光を浴び、今や現代アート界を代表する女性アーティスト シンディ・シャーマン。

最近では、ニューヨーク近代美術館“MOMA”が初期の「アンタイトルド・フィルム・スティル」全作品を購入、さらに熱狂的なファンであるマドンナがスポンサーになって回顧展が行われた。また96年東京都現代美術館で日本初の大規模な回顧展が行われ、4万人近い動員を記録、大反響を呼んだ。

モノクロ映画によく登場する女性から、男性雑誌のピンナップ・ガール、デザイナーズ・ブランドのファッション・モデル、そして性器もあらわな人形、分断され投げ出された身体の一部、ウジがわき腐乱した肉塊、さらに汚らしい嘔吐物と、鮮烈な印象を残す初期作品から、スキヤングラスでグロテスク極まりないポートレイトへ、次第にエスカレートし“変身”を続けてきたシンディ。そしていよいよ彼女が映画に“変貌”した。彼女との仕事を熱望するNYアーティストの仲間たちや「ベルベット・ゴールドマイン」のトッド・ヘインズ等が集結し、それもホラー映画を完成させた！

●少女から怪物“モンスター”へ シンディ・シャーマンについて



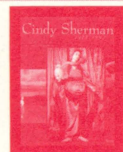
UNTITLED FILM STILLS (SCHIRMER ART BOOKS)



Cindy Sherman Retrospective (Thames and Hudson)



CINDY SHERMAN 1975-1993 (SCHIRMER ART BOOKS)



Cindy Sherman 1975-1993 (Rizzoli International Publications, Inc)

1954年生まれ。ニューヨーク州立大学卒。B級映画の様々なヒロインに扮した「アンタイトルド・フィルム・スティル」で一躍注目される。その後、腐臭を放ち妖しく輝く、まるで悪夢の様なイメージが次々と変貌し続ける。コンセプチュアルなセルフ・ポートレイトは、写真にまったく新しい可能性を見出したとして評価が高い。

「私自身の恐怖の感覚のすべてが、主人公の眼差しに含まれています」



嫌いな上司は殺しましょう
あなたの隣にもオフィスキラ

これは出版社に勤めるさえないOLの奇妙な殺人願望についての物語である。リストラを余儀なくされた主人公ドリーンは、ふとしたことから殺人に目覚め、地下室で不気味なコレクションを始める。夜のオフィスを動き回る影、怪しいメール、不気味に光るコピー機、現れては消えるトイレの人影、非常階段の足音…いつしか地下室には人形のように釣り下げられた“人体パーツ”のコレクションが…。



●リストラ、社内イジメ、幼児虐待、親との隔絶、擬似家族、現実逃避… この映画はあらゆる恐怖の実験室

残業しながら人殺し…「オフィスキラ」はまるで“悪い冗談”のよう。しかし、ドライなホラー映画を装いながら同時に、小さく臆怖な人間が感じ取ってしまう、日常に潜む暴力性や悪意がジワジワと描き出され、居心地の悪い恐怖が見る者にまわりついてくる。これこそシンディのアートに通じる、悪夢の様に醜いものが映し出す現実的な“おそれ=恐怖”だろう。そして今、ラブ・ストーリーより殺人鬼、サイコドラマにこわい童話…普通の若い女性の間で“殺人”に対するちょっと不気味な現象が起こっている。

思いもよらないストレス、人間関係で気付かぬうちに鬱積していくそれらを、殺人鬼が犯す殺人でカタルシスを得、発散。フィクションでは物足りなく、凶悪で猟奇的であるほど魅かれる。単なる“コワイもの見たさ”がエスカレートし、ドギツイ刺激がクセになり、ハマっていくのである。もはや雑誌のストレス解消法やアロマでは癒されず、“恐怖”もひとつの“美容法”になってしまったのだ。

こわ〜い地下室で、
死体とおままと
次はあなたの職場で殺します



●ロッテルダム国際映画祭 “The Cruel Machine” 部門正式出品 人体パーツで遊ぶ”FUNNY HORROR”に場内騒然



毎年ユニークな特集上映が話題となるオランダ・ロッテルダム国際映画祭。本作が出品された部門は「The Cruel Machine (=殺人鬼)。“人はなぜ殺人鬼に変貌するのかの考察”というテーマのもと、「ドーベルマン」、「アサシンス」、「キスト」、そして日本から「CURE キュア」等、計25本以上の作品が上映され映画祭中最も大きな話題をさらった。特に本作は、女性監督ということもあり、場内満席の中行われた。時に「ウゲッ!」という奇声のもと退場者が出たかと思うと、突然大笑の渦が巻き起こるという上映だった。まさに「この作品は不気味だけど“ファニー”なホラーなの」とシンディが目指した様に、「FUNNY=[1. 妖しく/2. 冗談のように不思議で/3. 吐き気がする]」、ファニー・ホラーとして絶賛を浴びたのだ。

GO FUNNY!

製作:クリスティン・バション/脚本:トム・ケイリン「アンディ・ウォーホルを撃った女」/脚本協力:トッド・ヘインズ「ベルベット・ゴールドマイン」/撮影監督:ラッセル・ファイン
音楽:エヴァン・ルーリー/出演:キャロル・ケイン「夕暮れにベルが鳴る」、モリー・リングウォルド「プリティ・イン・ピンク」、ジーン・トリプルホーン「氷の微笑」
ミラマックス&グッド・マンション提供/1997年アメリカ映画/84分ドルビー/提供:ポニーキャニオン、アスミック・エース/配給:エース ビクチャーズ

X-girl

あの大人気ブランド“X-girl”が「オフィスキラ」オリジナル限定T-シャツを3バージョン発売!
X-girlのショップと恵比寿ガーデンシネマでそれぞれ別のバージョンを発売中! (4800円)

クラブイベント開催決定
X-girl meets Cindy Sherman “OFFICE KILLER NIGHT”
7月30日(金) 恵比寿 **みるく** にて開催決定!
OPEN20:00~ALL NIGHT 2500円2DRINK LIVE & DJ and SCREENING
★このイベントでしか手に入らないSPECIAL VERSIONのT-シャツも販売します!

7月31日(土)より公開!

連日9:30より夜1回の上映 <9月より日曜休映>

恵比寿ガーデンシネマ

恵比寿ガーデンプレイス内・恵比寿三越となり
03-5420-6161 定員制・入替制

X-LARGE STORE
HEAVEN 27
scapegoat
distributed by

